ひょうご

農業女子 応援 BOOK

就農をめざす
女性のみなさんへ

農業を仕事にするまでのステップを紹介

（一社）兵庫県農業会議・ひょうご就農支援センター・兵庫県

発行 （一社）兵庫県農業会議・ひょうご就農支援センター・兵庫県
平成 30 年 1 月発行

但馬地区では
コウノトリ育む農法で
安心安全なお米を
育てています

ひょうご
農業女子 応援BOOK

就農をめざす
女性のみなさんへ

農業を仕事にするまでのステップを紹介

CONTENTS

3・4…… ひょうご農業女子　座談会 「農業って楽しい」

ひょうご農業女子ファイル

新規参入（I ターン）・独立就農

5…… vol.1 森本 聖子さん（神戸）

6…… vol.2 鈴木 彩さん（Farmer's Yard・中播磨）

U ターン独立

7…… vol.3 吉田 さつきさん（吉田農園・北播磨）

8…… vol.4 湊 友加さん（農事組合法人なちゅらるはーもにー・丹波）

農家と結婚を機に就農

9…… vol.5 大西 清美さん（Agriculture House おおにし・阪神）

10…… vol.6 三木 亜紀さん（あきふぁーむ・西播磨）

11…… vol.7 伊吹 彩子さん（伊吹農園・淡路）

雇用就農

12…… vol.8 丸尾 裕美さん（さんこうえん・東播磨）

13…… vol.9 佃 みのりさん（森脇牧場・但馬）

14…… 新規就農・キャリアアップ講座や制度

15・16… 9 人の農業女子に応援メッセージ

17…… 農業女子のネットワーク

18…… 兵庫県の支援窓口

※ひょうご農業女子の年齢は取材時のものです

大きく甘い兵庫の栗は
高級菓子の原料にも
なるんだよ

ひょうごで輝く農業女子に！

兵庫県では、ひょうご農林水産ビジョン 2025 を策定し、多様な担い手の確保・育成を推進しています。

近年増加傾向にある女性の新規就農を促進し、女性が活躍できる環境づくりを支援しています。

女性がさまざまな場面で活躍し、ブームを起こしている現象を、“〇〇女子”と表現されています。

“農業女子”もその一つです。一見、男社会の農業ですが、実は半分は女性で支えられています。

“農業女子”という言葉が表すように、主体的に農業に取り組む女性が増えており、自分のライフスタイルにあった農業を実践しています。

食に関心が高く、消費者の視点を持つ女性は、農業分野において、活躍できる可能性を多く秘めています。

自然と共生し、食を支える仕事として、農業に興味をもつ人はたくさんいます。

新3K

これからの農業は「かっこいい」「感動」「稼げる」

かっこいい	夢とプライドを持って頑張る姿はカッコいい！
感　動	自分のつくったものをおいしいと言ってもらえたらうれしい！
稼げる	可能性は無限大。やった分だけ、結果がでる！

この度、兵庫県では「ひょうごで輝く女性農業者活躍促進事業」を創設し、これから農業を始めたい女性を応援するため、本冊子を作成しました。

ここで紹介している女性農業者の就農のきっかけはさまざまですが、夢を持って取り組む姿はとても輝いています。

彼女たちの就農ストーリーを読んで、かっこよくて、感動できて、稼げる「新 3K 農業」を始めるきっかけとなれば幸いです。

但馬牛って
放牧することで
のびのび
育つんだって

たまねぎは兵庫県を
代表する野菜です

ひょうご農業女子 TALK

自然が大好き 家族と一緒に働けるのが魅力 毎日がストレスフリー

兵庫県内で農業に携わる女性10人に、農業の魅力を語り合ってもらいました。異業種からの転身、農家の子女、農家に嫁いだなど、就農のきっかけはさまざまですが、地域の農業の若い担い手として、彼女たちは大きな役割を果たしています。 ※文中敬称略

※司会＝前田美嘉ひょうご就農支援センター副センター長
※場所＝兵庫県立農業大学校（加西市）

自然の中で働き 自然に育てられている

―農業の魅力を一言で

森本　旅行会社に勤めていました。会社帰りに公的機関の講座を受講し、野菜作りにはまりました。その後、1年間農業技術を学び、平成25年に神戸市北区の淡河町で就農。野菜栽培が何より楽しい。

大西清美　夫が家庭菜園を始めたのがきっかけです。いろいろな人との出会いがあり、篠山の方と知り合ったことから黒大豆と野菜の栽培をしています。魅力は家族で一緒に働けることですね。

大西美鈴　平成29年に高校を卒業し、農業を職業に選びました。マイペースで働けるのが魅力かな。

丸尾　紆余曲折を経て、やりたい仕事をしたいと、花に関わる仕事を選びました。最初は園芸店で働き、最終的に自分で作ってみたいと、花き栽培に携わっています。自分が仕立てた花が小売店の目に留まり、リピートされたらすごくうれしい。農業に無限大の可能性を感じます。毎日がまさにストレスフリー。

吉田　大学卒業後、IT企業で働いていましたが、エンドユーザー（使う人）が直接見えず、役に立っている実感が持てませんでした。そんなとき、お客さんの喜ばれる顔が見え、いつも感謝できる、いちご農家の良さを認識して、実家に戻りました。自然の中では多くの恵みがあり、それが自分に返ってきます。自然に育てられ、自然に逆らえないという思いが常にあります。

鈴木　夫が独立就農し、私は大学の図書館に勤務していました。義母が病気になり、私がやるしかなかったので、農業を始めました。最初は「しんどい」「つらい」だけでしたが、だんだん楽しくなってきました。魅力は、今までやってきたことが生かせる点。野菜アレンジメントなど、いろいろな展開を考えています。

佃　小さいころから動物が好きで、農業高校畜産科を卒業後、兵庫県立農業大学校に入りました。2年生で牧場に研修に行き、その後研修先に就職しました。牛が高く売れたときや、品評会で良い成績が出せたときは達成感があります。

畑の中で子育て

三木　実家の近くに暮らし始めたときに、夫が畑をしてみたいと言い出し、いつの間にか私がどっぷりとはまってしまいました。子育て中は子どもを背負って畑に出ていました。ハウス2棟を譲り受けたのが、本格的な就農のきっかけになりました。平成28年9月に「たつの赤とんぼクラブ」を立ち上げました。仲間と一緒だと、地域のために、より大きなことができるのが魅力です。

湊　父母が〝安心安全〟な野菜作りを始めたので、手伝うことに。翌年には法人化し、役員にされてしまいました。平成29年1月の大雪で、ぶどうのハウスがつぶれたときに辞めたいとも思いましたが、お客さんの励ましが力になり、頑張ろうと思いました。子どもにお母さんが頑張っている姿を見せられるのも、魅力です。

伊吹　嫁いだ相手が農家の跡取りでしたので、結婚後すぐに就農しました。自然の生命力、恵みの中で仕事をしていて、生きていく上で一番大事な「食べ物」を作っていることに喜びを感じます。

習うより、慣れろ 研修の仲間が財産に

―就農までの研修について教えてください

佃　農業大学校2年生の秋に、但馬の牧場で研修を受けました。今はその研修先の牧場で働いていますが、「習うより、慣れろ」と教えてもらっています。学校で習ったことと違うことが多いですね。

森本　三宮で開講された新規就農駅前講座を受けた後、兵庫楽農生活センター就農コースで、就農に必要な基礎知識を1年間学びました。20人のうち女性は2人。「よーい、ドン」でスタートしているので、良いライバルであり、良い仲間。今も同期のつながりはすごいです。

地域からの信頼がやりがいにつながる

―経営者としてのやりがいは？

湊　経営していくのには、大変なことが多いのは事実です。地元の小学校やお客さんとのつながりの中から、地域からの信頼が得られてきたのがうれしいですね。

吉田　何でも自分で納得して決めることができるのが魅力です。決断するのは大変でもありますが、「自分はこれだ」と思ってやっています。少しずつ改善し、農業に向上心を持って取り組めるのは、代表だからかもしれません。

東京でのリーダー育成塾で農業経営を勉強中

―スキルアップのための学びは？

鈴木　平成29年度女性農業次世代リーダー育成塾を受講中です。4期目で35人が受講、兵庫県からは伊吹さんと2人です。毎月、東京で開催され、消費者は何を求めているのか、もうけるためにはどうしたらよいのかなど、農業の経営について学んでいます。

伊吹　入塾のきっかけは自農園のたまねぎをブランド化したいことです。自分自身や経営について、客観的に見ることができるようになってきました。淡路島では経験できない、学びや気づきがあります。

野菜を作るのが何より楽しい

●森本 聖子さん
神戸市北区淡河町で、いちご、野菜を栽培。兵庫楽農生活センター就農コースで学び、独立就農

自然の中は落ち着きます

●大西 清美さん
川辺郡猪名川町で、野菜、黒大豆ほかを栽培。家庭菜園から規模を拡大し、家族で就農

マイペースで働けるのがいい

●大西 美鈴さん
平成29年3月に高校を卒業し就農。川辺郡猪名川町で父母と一緒に農業に携わる

農業に無限の可能性を感じる

●丸尾 裕美さん
園芸店勤務から、花苗生産農場（加古郡稲美町）に就職。働きながら、栽培技術を習得

向上心を持って農業に取り組む

●吉田 さつきさん
IT企業勤務を経て、Uターンし、加西市にある実家のいちご農園で就農

トークに参加してくれたひょうご農業女子の皆さん

お客さんの励ましが力に

●湊 友加さん
篠山市で、実父母と一緒に新規就農し、農業法人の役員に就任。水稲、黒大豆、ぶどうなどを栽培

野菜のアレンジメントも作ります

●鈴木 彩さん
姫路市夢前町で、夫とともに有機野菜を栽培。野菜を使ったアレンジメントなども展開

仲間と一緒に地域貢献も

●三木 亜紀さん
たつの市で、モロヘイヤを主力に各種野菜を栽培。夫は兼業農家。たつの赤とんぼクラブ代表

牛飼いへの道を一直線

●佃 みのりさん
農業高校、農業大学校を経て、美方郡香美町で但馬牛の繁殖を行う牧場に就職

食べ物を作ることが喜び

●伊吹 彩子さん
淡路島の農家の跡取りと結婚して、すぐに就農。新しい農家の経営を模索中

ひょうご農業女子ファイル vol.1

新規参入（Ｉターン）・独立就農

農業の基礎知識を学んで独立就農
同期は刺激し、助け合う良き仲間
新鮮野菜を神戸のシェフへ直送

ハウスや露地で、料理のアクセントになるさまざまな野菜を栽培

作った野菜は、フレンチ・イタリアンレストランやカフェ、スイーツ、デリの店に納めます

主力のいちご栽培

ファーマーズマーケットに出店するときはこの看板が目印

神戸市北区淡河町

森本 聖子さん

もりもと しょうこ　神戸市中央区出身　38歳
高校卒業後アルバイトなどを経て、イギリスの語学学校に短期留学。帰国後旅行代理店勤務。結婚後、農業の基礎知識を学ぶ講座を受講し、続けて１年間就農希望者向けのコースを受講。神戸市北区淡河町で野菜作りを始める。夫は会社員。ひょうごアグリプリンセスの会会員

※栽培品目＝いちご、セロリ、芽キャベツ、プチヴェール、ラディッシュ、カラフル果菜類、食用ホオズキ、ハーブ類など。畑は淡河町内に計約20アール。ハウス３棟

ベランダ菜園がスタート 大好きな淡河町を元気に

森本聖子さんが就農するきっかけとなったのは、結婚後、新居で始めたベランダ菜園。これに飽き足らず、貸し農園（淡河町）で野菜を作ると、「プランターとは出来が違う」と、野菜作りの魅力にどっぷりとはまってしまいました。

「もっと農業の知識を深めたい」と、（公社）兵庫みどり公社の「新規就農駅前講座」を受講。知識を深めるほどに就農への意欲が増し、講座終了後すぐに、１年間の「兵庫楽農生活センター就農コース」に入り、就農に必要な基礎知識や技術を習得しました。

７期生として、一緒に学んだ同期20人の絆は強く、「最初は特殊な農機具の貸し借りや、ハウスの組み立てなどで助け合いました。今も協力し合う、良い仲間です」。

森本さんは初めて畑で野菜を作った淡河町が好きで、ここで休耕地を探し、就農。最初は地域のルールが分からずに、叱られたことも。村おこしのイベントを一緒にするなど、地道な努力を続けた結果、「徐々に垣根が取れてきました」。

現在は野菜の８割を三宮・元町・東灘のレストラン約20軒に配達。シェフやパティシエのメニュー作りの相談にも乗っています。

地域の人から信頼され、ついに空き家を購入。「淡河町内で野菜が売れるようになって、町が元気になってほしい」

森本さんの history

30歳	結婚。神戸市兵庫区の新居でベランダ菜園を始める
31歳	7月・8月に（公社）兵庫みどり公社の「新規就農駅前講座」を受講 9月から１年間「兵庫楽農生活センター 就農コース」を受講
32歳〜33歳	神戸市北区淡河町で研修
34歳	同地で就農

ひょうご農業女子ファイル vol.2

新規参入（Ｉターン）・独立就農

マルシェで野菜の展示方法の工夫
野菜アレンジメントの展開など
女子力が高い夫と活動の幅を広げて

有機野菜は個人や飲食店、地元の旅館、京都の卸業者などへ出荷。「スムージーやピクルス用の野菜をセットにして販売しています。ネットやイベントでも好評です」

結婚式用の和装に合うボールブーケ

アグリフード EXPO 大阪 2016

姫路市夢前町

Farmer's Yard

鈴木 彩さん

すずき あや　姫路市出身　39歳
大学卒業後、図書館・博物館に勤務。夫が先に就農し、翌年就農。野菜ソムリエ

※ Farmer's Yard ＝化学肥料、農薬を一切使わず、約365品種の野菜を栽培。野菜はひょうご安心ブランドに認定されている。ホームページほかフェイスブック、インスタグラム、ツイッターで情報を発信

プラスアルファの工夫で 有機野菜をさらに魅力的に

夫の就農後も自分自身が望む道を歩いていた鈴木彩さん。農業に少し興味を持ち始めたころに、義母の病気が発覚。「これも何かの定め」と受け止め、夫と一緒に農業をすることを決意しました。

「Farmer's Yard」では、年間約365品種の有機野菜を栽培。「最初はなす・きゅうり・トマトなど少品種でしたが、大雨でトマト2000株が全滅。少品種だとリスクが大きいと365品種に拡大しました。西洋野菜や他では見かけない変わった品種のものも栽培しています」

大きな転機は、夫婦で挑戦した、アグリフードEXPO大阪2016への出店。苔を使った展示など野菜の見せ方を工夫しました。３年前に始めた野菜アレンジメントも軌道に乗り、全体収益の約３割を占めるほどに。夫婦で有機野菜栽培＋αの農業を形作っています。

そんな二人は「平成29・30年はアクティブに。行きたい所に行き、したいことをしよう」と誓いを。女性農業次世代リーダー育成塾の受講で経営について学び、秋には夫婦でイタリア研修に行き、見聞を広めました。

マルシェの見学やイタリア人シェフが使う野菜の研究など、財産が増えたイタリア研修

鈴木さんの history

27歳	結婚
32歳	夫と義父母が就農。「Farmer's Yard（農家の裏庭）」と名付ける。自身は図書館勤務
33歳	義母が病気になったのをきっかけに就農
37歳	夫婦でアグリフード EXPO 大阪 2016 に出店。苔を使った展示など野菜の見せ方を工夫する
38歳	結婚式の会場ディスプレイ、ブーケなどすべて野菜で手掛ける
39歳	平成29年度女性農業次世代リーダー育成塾受講

ひょうご農業女子ファイル vol.3

Uターン独立

IT企業からいちご農園にUターン 15年間加西いちごを育て続け 支えてくれた地域の人への感謝

15年間、いちごの栽培は常に改善を重ね、大きな失敗はありません

吉田さんが自らペンキを塗り、完成した直売所。おいしいいちごが並びます

加西市

吉田農園　代表

吉田 さつきさん

よしだ さつき　加西市出身　43歳

大学卒業後、大阪のIT企業に入社。28歳でUターンし、父のいちご農園で就農。父が亡くなり、母と二人で農園運営。その後農園代表に。加西いちご部会所属

※吉田農園＝16アール、ハウス4棟でいちごを栽培。12月～5月は直売所でいちごを販売

規模を縮小して継続 農業の楽しさを伝えたい

大阪のIT企業で働いていた吉田さつきさんは、働いた分だけ結果が現われる農業に魅力を感じ、Uターンを決意。システムエンジニアからいちご農家へと転身しました。

「まずは勉強するつもり」で帰郷した吉田さんですが、わずか半年後に突然お父さんが亡くなりました。「肥料や農薬の管理は父がしていたので、困りました。全くの素人だった私を、近所の先輩農家さんや農業改良普及センターの普及指導員さんが助けてくれました」

お父さんが規模を拡大した農園は吉田さんとお母さんの二人で管理できる範囲に縮小。加西いちご部会には就農したときから入会し、お互いに技術を高め合っています。

吉田さんのhistory

- 22歳　IT企業に就職し、システムエンジニアとして働く。大阪で一人暮らし
- 28歳　加西市に戻り、両親のいちご農園に就農
- 38歳　吉田農園の代表に就任
- 43歳　ひょうご農業MBA塾受講 新しい直売所が完成

手探りで始めたいちご栽培は、もう15年に。「これまでやってくることができたのは、地域の人にいちごを買っていただいているおかげです」。支えてくれる人がいるから、もっと頑張ろうという気持ちが湧いてくると静かに語ります。

「加西いちご」を生産する農家が減少している今、「できるだけ長く続けたい。そして農業は大変なことばかりではなく、魅力的な仕事だと伝えていきたいと思っています」

丁寧な作業でおいしいいちごに

ひょうご農業女子ファイル vol.4

Uターン独立

家族で農業法人を設立・経営 篠山の特産物を守り育てたい 高齢化の中、担い手としての覚悟を

友加さんに続いて夫も就農

農作物を出荷するときは、「娘を嫁に出すような気持ち」

家族ぐるみで、「安心安全」な野菜作りに励みます

篠山市

農事組合法人なちゅらるはーもにー　代表理事

湊 友加さん

みなと ゆか　篠山市出身　42歳

篠山市内の企業で栄養士として働き、結婚後就農。兵庫県女性農業士、篠山市農業委員。3男2女（17歳～9歳）の母。夫も就農

※なちゅらるはーもにー＝30ヘクタールの農地で水稲、黒大豆、黒大豆枝豆、ぶどう、小豆、やまのいも、旬の野菜を栽培。従業員は友加さんの実父母、友加さん夫妻、社員2人、パート2人

地域とのつながりが糧に 子育ても仕事も一生懸命

兼業農家で建設会社を営んでいた実父が「安心安全な野菜を作りたい」と始めた「なちゅらるはーもにー」。「今からは女性の時代」という父の一声で、湊友加さんが代表理事の座に就きました。以来、農作業に子ども5人の世話、地域活動と、多忙な日々が続きます。

農業者の高齢化で、やまのいもや黒大豆の生産高が減少する中、「篠山の特産品を守っていきたい」と、地域の担い手としての覚悟を。若い社員2人を、次世代の担い手として育てています。

お盆の時期のお供え用にと、収穫時期を工夫したぶどうの栽培は、「冬の大雪でハウスがつぶれて大きな被害が出て、がっくりきました」と、自然相手の仕事ならではのアクシデントも経験。若手の農業者がつながり、悩み事を気軽に話し合える場づくりにも力を注ぎます。

地域の学校給食用に旬の野菜とぶどうを供給し、「地域とのつながりが財産」。10月の黒大豆枝豆、11月のお正月用黒大豆の出荷と年間でも一番多忙な時期も、「手をかけて育てたら、良いものができます」と、一生懸命が信条です。

湊さんのhistory

- 24歳　結婚、翌年長男出産
- 26歳　農事組合法人なちゅらるはーもにー代表理事に就任し、就農
- 40歳　兵庫県女性農業士に認定される

やまのいもの畑の後に黒大豆の畑が広がります。どちらも兵庫県認証食品で、化学肥料・農薬を5割以上減らした〝ひょうご安心ブランド〟。

ひょうご農業女子ファイル vol.5

農家と結婚を機に就農

丹波の名産・黒大豆枝豆を気候条件が合う猪名川町でもおいしさが評判になり観光農園も

近隣の耕作放棄地も借り、自宅前に広がる黒大豆畑

栽培した黒大豆は、冬場には清美さんが焙煎し、きなこを作ります

高校卒業後の進路に悩んだとき、父親に「農業という道もあるよ」と背中を押された美鈴さん

川辺郡猪名川町

Agriculture House おおにし　代表

大西 清美さん

おおにし きよみ　猪名川町出身　40歳

夫と娘の3人で就農。夫も専業農家。ブログ「猪名川農業女子PJ」を発信中

※ Agriculture House おおにし＝約200アール、露地で黒大豆、2棟のハウスでトマト、こまつな、にんじん、ちんげんさい、ラディッシュ、だいこんなどを栽培

家族で就農し農業法人へ地域の活性化にも貢献

10月・11月は黒大豆を栽培する農家にとっては、多忙な時期。圃場で枝豆を切り、軽トラックで作業場へ運び、機械で脱さやして袋詰め。「これを一日何サイクルも行います」と大西清美さん。「一年で一番忙しく、楽しい時期です」

一緒に作業するのは、平成29年3月に高校を卒業し就農した、娘の美鈴（みれい）さん。清美さんにとって大切な相棒です。枝豆のシーズンが終わると、お正月用の黒大豆の出荷と、ほっとする間がありません。

6年前、夫の実家の使っていなかった畑を利用し、家族で野菜栽培を始めました。翌年、黒大豆の栽培を始めたら、そのおいしさが評判に。「この辺りまでが、昼夜の寒暖差が大きく、霧が発生する丹波地方と同じ気候。条件が良かった」。4～5年前から黒大豆枝豆の収穫体験ができる観光農園を始めると、味の良さにリピーターが増えています。

平成29年は、「Agriculture House おおにし」を設立し、清美さんが代表に。猪名川町で女性初の認定農業者にもなり、飛躍の年になりました。「地元の活性化に少しでもお手伝いを」と、平成30年の農業法人化を目指します。

大西さんのhistory

- 34歳　家族で野菜栽培開始
- 35歳　初めて黒大豆栽培
- 40歳　「Agriculture House おおにし」を発足させ、代表に就任。娘・美鈴さんも高校を卒業し就農。猪名川町から認定農業者に認定される

猪名川町内の幼稚園で、園児に黒大豆枝豆について話をする母娘

ひょうご農業女子ファイル vol.6

農家と結婚を機に就農

ハウス2棟をもらい受け就農モロヘイヤ主体に季節の野菜作り将来はハウスを増やして農業法人に

自宅近くのハウスでは季節の野菜を栽培

主力のモロヘイヤの収穫

子どもたちも農業が大好き

たつの市揖保川町

あきふぁ～む　代表

三木 亜紀さん

みき あき　たつの市出身　41歳

専門学校卒業後、岡山のアパレル会社にデザイナーとして勤務。結婚を機に退職。33歳で就農。2男1女の母。夫は兼業農家

※あきふぁーむ＝約20アール、6棟のハウスでモロヘイヤ、トマト、ピーマン、きゅうり、露地30アールでオクラなどを栽培。従業員は実母と三木さん、パート5人。2男1女の母。「たつの赤とんぼクラブ」会長

元手はゼロでスタートパワフルママが規模拡大

人気テレビ番組の中で実際に農業を行う企画を見て農業に興味を持った三木亜紀さんは、家の近くの畑を借りて家庭菜園を開始。近くの直売場で、「自分で解体して持っていくなら、ハウスを無料で譲るよ」という人と出会い、もらうことを決断。夫の協力でハウスを組み立て、本格的に就農しました。

その当時、指南を受けた人がモロヘイヤの栽培をしていたので、そのままモロヘイヤを主力に。「元手はゼロ。主婦がパートに出るくらいの感覚でスタート」とはいえ、パワフルな三木さんはハウスを毎年1棟ずつ増やし、今では6棟に。「新規就農者の受け皿になりたい」と若手農業者に呼び掛けて「たつの赤とんぼクラブ」を作り、会長としても多忙です。

「就農してすぐに長男が産まれたので、おんぶしたりベビーカーに乗せたりして作業しました」。こんな環境で育った子どもたちは、「将来は農業をしたい」との夢を持つように。「ハウスを10棟ぐらいに増やして軌道に乗せ、夫が専業農家になれるように法人化したい。そして農園を子どもたちに残したい」と考えています。

三木さんのhistory

- 24歳　結婚
- 30歳　家の近くの畑を借りて夫と家庭菜園を開始。長女誕生
- 32歳　ハウス2棟をもらう
- 33歳　4月から新規就農。6月に長男誕生
- 39歳　ハウスを毎年増やし、6棟に。たつの赤とんぼクラブを発足させ、会長就任

自分でデザイン・パターン作成・縫製したウエディングドレス。このドレスでデザイナーへの夢を完結させました

ひょうご農業女子ファイル vol.7

農家と結婚を機に就農

栽培品目のバランスや出荷を見直し 稼ぐことができ楽しめる農業経営へ 子どもが継承したい農業を目指して

淡路島が誇るブランド特産品のたまねぎの出荷作業

家族の写真をイラスト化して、伊吹農園のロゴに。ポスターや出荷用の段ボールに使われています

南あわじ市

伊吹農園

伊吹 彩子さん

いぶき あやこ　鹿児島県奄美大島出身　34 歳
高校卒業後、大阪の専門学校に進学。アルバイト先で夫と出会い、結婚と同時に淡路島へ。1 男の母

※伊吹農園＝延べ面積 13 ヘクタール。たまねぎ、レタス、キャベツ、水稲。従業員は彩子さんの義母と彩子さん夫婦、社員 1 人

経営者の目線で農業を考え講座参加で視野を広げる

奄美大島から淡路島に嫁いだ、伊吹彩子さん。夫は、大学卒業後すぐに淡路島に戻り、就農。「いつかは農業を手伝うのなら最初から」と、結婚と同時に就農しました。

奄美大島で祖父がサトウキビ農家だったものの、自身は全く農業の経験はなし。家族経営の中で農業技術を覚えていきました。

その後、伊吹農園の大黒柱だった義父が亡くなり、3 歳年上の夫と二人、経営を任されることに。「作付けの段取り、お金のやりくりなどなど、経営者となると、手伝っていた頃とは全く違います」

若い二人は、「働いた分だけもうかるという考えはもう古い。労働力を経費と考える経営を」と、栽培 4 品目の中でたまねぎにやや重点をおき、JA 中心の出荷から直売を増やすよう努力しています。

日々の作業に追われる日から、ここ数年は「先のことが考えられるようになった」と、経営者向けの講座を受講し、視野を広めています。「農業はやり方次第で稼ぐことができ、楽しいということを実践して、将来子どもたちが職業を考えるときに、その選択肢の一つになるように、頑張りたいですね」

広いレタス畑の収種は伊吹さんの担当。収種を終えると軽トラックで作業場へ運びます

収穫期

伊吹さんの history

- 22 歳　農家の跡取りと結婚し、就農
- 23 歳　長男出産
- 27 歳　義父が亡くなり、夫婦に経営が移譲される
- 31 歳　ひょうご農業 MBA 塾受講
- 33 歳　「あわじ農業女子」を立ち上げ初代会長
- 34 歳　平成 29 年度女性農業次世代リーダー育成塾受講

ひょうご農業女子ファイル vol.8

雇用就農

花苗を売る側から生産する側に やりたいことを模索し続け 花を相手にストレスのない毎日

花苗の品種改良の楽しさも知り、充実の毎日。趣味のマラソンでは月に 1 度は大きな大会に出場

さんこうえんで品種改良に取り組んだ四季咲きなでしこ（写真手前）

パンジーやビオラはホームセンターに出荷

加古郡稲美町

さんこうえん

丸尾 裕美さん

まるお ゆみ　明石市出身　40 歳
大学卒業後、すぐに結婚。27 歳で離婚。数種類の仕事を経て、園芸店勤務の後に就農。趣味はマラソン。明石市在住

※さんこうえん＝ハウス 2 棟でパンジー、ビオラ、日々草、ナデシコ、コスモス、ロベリアなど 30 種の花苗を生産販売

新規就農者を手助けする制度活用 雇用主に遠慮せず技術習得

数種類の仕事を経験した丸尾裕美さんは、30 歳で「20 歳から続けてきた生け花を仕事に生かしたい」と園芸店に就職。花き栽培に関わるきっかけとなりました。

2 軒目の園芸店では、花苗の仕入れも担当。フェイスブックで「さんこうえん」を見つけ、直接仕入れに出向いたところ、「人出が足りないので、休みの日にアルバイトに来てくれませんか」と代表の山口順治さんから話が。「自分が作った花を販売したい」との思いがあった丸尾さんは、園芸店と掛け持ちで働き始めました。翌年には勤務先が閉店し、「さんこうえん」に社員として就職しました。

花き栽培は未経験なので、戸惑いもありました。農業改良普及センターの普及指導員の勧めで、最初の 1 年間は「就農促進研修生」、その後 2 年間は「農の雇用事業」を利用。「新規就農者を雇う雇用主へ研修費用を助成してくれる制度なので、代表に遠慮なく教えてもらうことができました」

研修と実践で技術を身に付け、今では出荷する際の仕立ての作業は、ほとんど丸尾さんが担当するまでに。「前職の園芸店で生産者から買う立場にいたので、買う側の目に留まるようにと思って仕立てます」

山口代表夫妻と丸尾さん。それぞれの役割をこなす良い関係

丸尾さんの history

- 30 歳　2 軒の園芸店に勤務
- 35 歳　さんこうえんにアルバイトとして勤務
- 36 歳　さんこうえんに社員として就職し、就農
- 37 歳　平成 26 年度就農促進研修生
- 38 歳～39 歳　農の雇用事業研修生（平成 27 年～ 29 年）

ひょうご農業女子ファイル vol.9

雇用就農

但馬牛を自分で育てたい 農業高校・農業大学校は畜産科 夢の実現に向けて迷わず一直線

森脇牧場の第２牛舎

力仕事も「苦にならない」と佃さん。一番びっくりしたのは、冬場の積雪だそうです

「子牛に接しているときが一番楽しい」と笑顔がハジけます

美方郡香美町

森脇牧場

佃 みのりさん

つくだ みのり　西脇市出身　25 歳

兵庫県立播磨農業高等学校畜産科・兵庫県立農業大学校卒業。大学校在学中に森脇牧場で研修し、卒業と同時に同牧場に就職。みかた和牛会会員

※森脇牧場＝肉用牛の繁殖農家。第１牛舎・第２牛舎合わせて 150 頭の但馬牛を飼育

好きなことができて幸せ 30歳前後の独立が夢

佃みのりさんは、父親が競争馬の世話をする仕事をしていたため、1歳のころから動物好きに。高校は迷わずに農業高校畜産科を選び、その後農業大学校に進学しました。

「但馬牛を自分で育てたい」と夢を抱いていた佃さんは、2年生のときの森脇牧場での実習で、「やっぱりこの仕事だ」と確信。卒業と同時に、森脇牧場に就職しました。

一直線で進んできた畜産家への道。「好きなことをやれて毎日がうれしい」と、夢と現実のギャップはありません。「学校の教科書で学んだことと実際の農家のやり方は違うことも多々ありますが、見て覚えていきたい」と澄んだ目が印象的。5年目の今では、親牛のえさやりと子牛のミルクやりは、佃さんに任せられています。

将来は「自分で牧場を経営したい」と、30歳前後の独立を視野に入れ、コツコツと貯蓄も。「空き牛舎を探して、牛は自分1人で手が回る範囲の頭数で始めたい」と、計画は具体的です。若手但馬牛飼育農家で作る「みかた和牛会」にも参加して情報交換し、畜産技術の向上を目指しています。

「ものを言わない牛の気持ちが分かるようになってきた」と、親方のお母さんからの評価は上々

佃さんの history

18 歳	兵庫県立農業大学校入学
19 歳	森脇牧場で 40 日間研修
20 歳	農業大学校を卒業、森脇牧場に就職。森脇牧場第１牛舎が職場に。県の平成 25 年度新規就農離陸加速モデル推進事業研修員
21 歳・22 歳	農の雇用事業研修生（平成 26 年～ 27 年）

ひょうご農業女子 KNOW-HOW

就農から経営発展まで行政が後押し

兵庫県では就農のための技術やノウハウを学ぶ研修制度を数多く用意しています。9 人の農業女子も、学びの場や研修制度、キャリアアップのための講座を利用し、農業者として成長しています。彼女たちが利用した講座や制度を中心に、新規就農やキャリアアップに役立つ情報をお届けします。

※制度や講座は平成 29 年度現在のもの。今後変更の場合もあります。

新規就農

学ぶ

◆兵庫県立農業大学校

加西市にあり、農業生産を担う農業技術者並びに農業経営者を目指している学生を募集しています。募集人員 40 人（農産園芸課程、畜産課程）。教育期間は 2 年間で全寮制。

また、兵庫県内で本格的に就農を希望する人を対象に、農業大学校の施設などを利用し、1 年間（9 月 1 日開講）を通して栽培から販売まで、実践的な農業生産を実施する実践研修も行っています。

◆（公社）兵庫みどり公社

新規就農駅前講座

農業に関心のある会社員などを対象に、農業の基礎知識を習得するための講座。6 回シリーズ、年 4 期。神戸地域（三宮・元町）と播磨地域で開催。参加費 5000 円。

兵庫楽農生活センター　就農コース

本格的な農業経営を目指す人を対象に、専門家による指導や圃場での栽培学習などを行い、総合的な知識や農業技術、経営管理を習得する 1 年間のコース。募集人員 20 人。1 年間 15 万円。

支援

◆農の雇用事業

新規就農者の雇用就農を促進するため、農業法人などが就農希望者を雇用して農業技術や経営ノウハウなどの実践的な研修を行った際に、その研修に対してその研修費用を助成しています。

キャリアアップ

自治体や国の研修

◆ひょうご農業 MBA 塾

農業経営者として知っておきたい経営学や心構え、販売戦力など学ぶ塾。募集人員 10 人程度。月 1 ～ 2 回程度で 16 回。受講料 8 万円。（一社）兵庫農業会議・兵庫県主催。

◆女性農業次世代リーダー育成塾

農林水産省の補助事業として（一社）日本能率協会が主催。女性就農人口の拡大のための人材育成事業の意味合いを持ち、生産された農産物から商品を企画・開発し、販売するために必要な能力を養うための講座。全国応募者の中から 20 人が選出されます。7 回で受講費用は事務局が負担。

認定制度

◆兵庫県女性農業士

自ら農業や漁業を営みながら、地域の農漁業や農漁村の活性化、農漁村の青年の育成などに取り組んでいる女性リーダーを、兵庫県知事が兵庫県女性農業士・女性漁業士と認定する称号。

◆認定新規就農者

営農開始に向けて、作物、農地、開始時期、技術の習得法、資金計画、農業所得目標などの「就農計画」を作成し、市町の審査で適切なものと認められると、市町長が認定新規就農者に認定。認定新規就農者になれるのは、18 歳以上 65 歳未満。

◆認定農業者

農業者自らが、5 年後の目標とその達成のための取り組み内容を記載した農業経営改善計画を市町村に提出。市町村基本構想に適しているか、農用地の効率的・総合的な利用に配慮しているか、達成できる計画かが適当と認められたら、認定農業者に認定され、各種支援が受けられます。

9人の農業女子への応援メッセージ

ひょうご 農業女子 MESSAGE

9人の〝ひょうご農業女子〟たちの就農へのストーリーはさまざま。彼女たちの就農への道のりでは、いろいろな人からのサポートがありました。〝ひょうご農業女子〟一人一人への応援メッセージを紹介します。

農家と結婚を機に就農

家族で就農

大西 清美さん
➡ P9へ

Uターン独立

農業法人の代表に

湊 友加さん
➡ P8へ

IT企業からいちご農園へ

吉田 さつきさん
➡ P7へ

新規参入・独立就農

夫婦で新たな分野に挑戦

鈴木 彩さん
➡ P6へ

兵庫楽農生活センターで学んで就農

森本 聖子さん
➡ P5へ

農家の跡取りと結婚

伊吹 彩子さん
➡ P11へ

近隣の土地で就農

三木 亜紀さん
➡ P10へ

農家と結婚を機に就農

雇用就農

農業大学校で学んで就職

佃 みのりさん
➡ P13へ

就職先で技術習得

丸尾 裕美さん
➡ P12へ

“農業女子”頑張っているな！

伊吹 榮子さん

伊吹農園
伊吹彩子さんの義母

彩ちゃんが就農してくれたこと、まずはお礼申し上げます。

南あわじは低地帯の上、農業は天候相手。辛抱と考察なくして、経営は成り立ちません。

彼女は近隣農家のお話や研修で学んだことを、経営に生かしています。我が家の労働時間、経費等をしっかり記帳、記録し、数字に基づく検証。パソコンを大いに活用し、販売や作業計画、栽培計画を、今以上に頑張ってください。

私たち夫婦がほそぼそと続けていた産直。若い二人は、経営の柱の一つにと努め、実現しつつあります。期待し、楽しみにしています。彩ちゃんの集い、学んでいる姿にエールを送ります。ずーっと、ずーっと続きますように！

花の生産に励む姿が頼もしい

山口 順治さん

さんこうえん代表
丸尾裕美さんの雇用主

「ロシアンセージを仕入れたい」と園芸店で働く女性がうちのハウスに来たのが、丸尾裕美さんと花苗生産農場「さんこうえん」との出会いでした。「随分とシャキシャキした方だなぁ～」が初印象で、少し話をしただけで、植物が大好きなのが分かりました。丸尾さんはとにかく働き者で、「マグロのように動いていたい」と言うのがおもしろかったです。

現在も「さんこうえん」で、暑い夏も寒い冬も労をいとわず、懸命に花の生産に励む姿は、本当に頼もしい限りです。これから先も、花生産の経験と知識を積み重ねて、いつでも独立できるレベルになって、「さんこうえん」という場で、私たちとともに楽しい人生を歩んでいただきたいと思っています。

とても頼もしい農業女子

北本 則子さん

阪神農業改良普及センター　所長
大西清美さん担当の農業改良普及センター

平成29年3月、猪名川町初の女性認定農業者が誕生した。大西さんを初めて知ったのは、認定農業者として、お名前が計画書に載ったときでした。てっきりご主人が代表とばかり思っていたので、経営主が清美さんと聞いて「あっ、やるなぁ」と思ったのが正直な感想です。

農業を始めた当初は、ご主人の指導のもと、作物を作り始めたようですが、今では、畑に伺うとトレードマークともいえる、オレンジ色のツナギ姿をすぐに見つけることができます。地元の品評会にもステキなパッケージで参加し、後に続く娘さんと二人、息の合ったチームでバリバリと作業されています。とても頼もしい農業女子です。がんばれ農業女子、続け農業女子！

努力し、着実に成長する姿にエールを

三崎 博史さん

朝来家畜保健衛生所長
佃みのりさんを農業大学校で指導

佃さんにお会いしたのは、私が県立農業大学校で副校長をしているときでした。在学中は、将来「自分で但馬牛を育てる」という目標を見据え、講義、実習ともまじめに取り組み、極めて優秀な成績を修められました。

「牛を飼いたい」という夢を持つ学生は少なくないですが、後継者でない者は、いくら意欲があってもいろいろな壁にぶつかり、残念ながら独立就農の道を断念する場合がほとんどです。

今、但馬家畜市場で森脇牧場の牛を出荷する佃さんの姿を見るにつけ、努力され、着実に成長されており、将来、間違いなく夢を実現されると感じます。但馬牛を担う彼女に、期待を込めてエールを送りたいと思います。

農業の発展のため明かりをともし続けて

神尾 征典さん

グランドファーム神尾代表
三木亜紀さんが立ち上げた、たつの赤とんぼクラブ副会長

私と三木亜紀会長の出会いは3年前。トマト以外経験がない中、葉物野菜に取り組むために、JAの部会に加入したことがきっかけでした。自らの経営もあり、子育てに追われるなか、農業を始めて右往左往する私に手本を示してくれたことが、「たつの赤とんぼクラブ」を設立する大きなきっかけとなりました。三木会長にはさらなる上を目指しもらい、また私は新たな新規就農者の手助けをすることと決めて、会の運営にあたっています。

これからは集落の枠を超えて仲間をつくり、助け合っていかなければ、厳しい時代に生き残ることは困難となるでしょう。会長には、私の手本となってくれたように、広く農業の発展に明かりをともし続けてほしいと、願っております。

これからもおいしいいちごを

東郷 麻弥さん

JA兵庫みらい　農産物直売所　かさい愛菜館　店長
吉田さつきさんが出荷するいちごのJA直売所担当

入組2年目に前担当から部会を引き継ぎ、初めてお会いしました。男性ばかりのいちご農家の中、若い女性がいちごを作っていたので、すごく印象に残っています。

話を聞けば、もともとは全く違う分野でお仕事をされていて、家を継いでいちご農家になられたとのことで、すごく驚きました。部会活動を通じて、ハウス内を見せてもらいましたが、いつ伺ってもきれいに掃除されていて、感心しました。

お得意さまに収穫開始のお知らせを送ったり、季節ごとにいちごのパッケージを飾ったりなど、女性らしいこまやかな気遣いが人気で、店舗に来るお客さまにもファンが多くおられます。お会いしてからはや10年。これからもおいしいいちごを作ってください。

楽しめる農業を続けて

中西 重喜さん

兵庫楽農生活センター　楽農学校課　非常勤嘱託員
森本聖子さんを就農コースで指導

兵庫楽農生活センター就農コースに定員以上の応募があり、面接前に森本聖子さんは「落とされるのは経験のない私たちやね」と話していたそうです。面接に臨むと、はきはきと農業に対する思いを話され、好印象を受けて採点をしました。

入学後は分からないことはどんどん質問し、出荷野菜のPOPや包装などに、こまやかな感性が光っていました。卒業前に農地を探しましたが、女性が農地を借りるのは難しく、私の農地を貸すことにしました。その後、段々畑を次々と借りて規模を拡大しながら、栽培品目を増やしています。今もシェフのオーダーにこまやかに対応し、分からないことは電話をしてきます。体力に合わせた規模で、楽しめる農業を続けてほしいと思っています。

地域の太陽として若手農業者を導いて

岡本 美都子さん

兵庫県丹波県民局丹波農業改良普及センター　普及主査
湊友加さん担当の普及指導員

いつも元気はつらつ、湊友加さん。ご両親とともに始められた農業に、プロ意識をもって取り組み、コツコツと力を身につけてこられました。自然体で明るく、のびのびと農業に取り組んでいる姿は、そばで見ていて気持ちのよい女性です。

篠山市農業委員としても、農業の先輩、人生の先輩方々とともに、地域農業の振興に一生懸命、関わっておられます。

創業時の思いを大切に、オンリーワンの「なちゅらるはーもにー」を育て、地域の太陽として、若手農業者を牽引してほしいと思います。丹波農業改良普及センターも応援しています。

クリエイティブ農業に妻の存在は不可欠

鈴木 広史さん

Farmer's　Yard
鈴木彩さんのパートナー

「農業にとって大切なことは何ですか」の質問に、「これまで生きてきた経験を生かすことだ」と答える。販売形態も多種多様になり、女性の感性が売り上げを左右する時代に入った。「Farmer's　Yard」における妻の存在は大きい。女性の感性は、カラーリングやサイズ感など、女性にとって心地イイ商品の開発等があるが、それだけではない。一番大切なことは、「ここぞというときの決断力！」。妻の潔い決断力に何度も助けられた。

これまでの経験をうまく生かした活躍には、頭が下がります。私が楽しくクリエイティブ農業をできているのは、妻の存在が不可欠。これからますます忙しくなりますが、体に気を付けて。新たな分野への挑戦を一緒に続けていきましょう。

たつの赤とんぼクラブ

地元企業や学校と協力し、地域活性化に役立つ活動

三木亜紀さんは平成 28 年 9 月、新規就農者の受け皿になりたいと、「たつの赤とんぼクラブ」を立ち上げました。会員は現在男女 18 人です。地元企業・ヒガシマル醤油の土地改良剤開発への協力や、たつの市のふるさと納税返礼品の一つに野菜ボックスをラインアップするなどの活動で、地域の活性化を目指します。ホームページ、フェイスブックで情報発信中。

akatonboclub.com

※青年農業者が加入する農業青年クラブは各地域にあり、兵庫県青年クラブ連絡協議会＝事務局：（公社）みどり公社＝に 16 組織が登録しています。

あわじ農業女子

研修や意見交換に加え、息抜きの場にも

伊吹彩子さんは平成 28 年、「あわじ農業女子」を南あわじ市で立ち上げました。「農業に携わる、同じような環境の女性が集まることができたら」と、小学生から高校生の子どもを持ち、農業に関わっている女性が集まりました。

最初は 4 人でスタートし、現在は 12 人程度。トラクターなど農業機械の操作の習得（写真）や圃場見学などの研修、意見交換を行っています。また、会員同士のちょっとした息抜きの場にもなっています。

新規就農者の問い合わせ先

●（一社）兵庫県農業会議・ひょうご就農支援センター

〒 650-0011　神戸市中央区下山手通 4-15-3　兵庫県農業共済会館 3 階
TEL 078-391-1222　FAX 078-391-8755
http://www.hyogo-shunou.jp/

学生から社会人までの幅広い年齢層の就農希望者や農業参入企業に対して、就農に向けた相談や各種情報提供、研修期間の紹介を行います。県全域が対象ですが、相談者が農業開始を希望する地域の「地域就農支援センター」と連携しながら支援を行います。

●地域就農支援センター

県内13の農業改良普及センターの中に設置しています。

●兵庫県立農業大学校

〒 679-0104　加西市常吉町 1256-4
TEL 0790-47-2445
FAX 0790-47-1772
http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/nodai/index.htm

●（公社）兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター

〒 651-2304　神戸市西区神出町小束野 30-17
TEL 078-965-2047　FAX 078-965-2659
http://hyogo-rakunou.com/

暮らしの中で県民の誰もが気軽に「農」を学び、体験し、実践できる拠点として、兵庫楽農生活センターを運営しています。

●兵庫県農政環境部農政企画局農業経営課（担い手対策班）

〒 650-8567　神戸市中央区下山手通 5-10-1
TEL 078-341-7711（代表）
内線 3952・3953
FAX 078-362-9394
https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/nogyokeiei/index.html

（一社）兵庫県農業会議・ひょうご就農支援センター

就農相談窓口

相 談 日　月曜～金曜（祝祭日を除く）
相談時間　午前＝ 9：00 ～ 11：00、午後＝ 13：00 ～ 16：00（事前に電話で予約をお願いします）
交　　通　JR 元町駅・阪神元町駅から徒歩 5 分、神戸市営地下鉄県庁前駅から徒歩 2 分

ひょうご農業女子 NETWORK

農業者同士のネットワークで知識や活動の幅を広げて

兵庫県内には農業者のネットワークが多数あり、活発に活動しています。その中の女性農業者ネットワークを下記表で紹介します。農業女子 9 人のうち、森本聖子さん・湊友加さんは県域で活動する「ひょうごアグリプリンセスの会」に、伊吹彩子さんは南淡路の「あわじ農業女子」に所属しています。三木亜紀さんは男女を問わない、「たつの赤とんぼクラブ」を立ち上げました。

ひょうごアグリプリンセスの会

県域での活動はゆるやかな仲間づくり

若手女性農業経営者で作る「ひょうごアグリプリンセスの会」は、会員の農業経営の発展を図り、県内で女性農業経営者が連携し、元気に活躍することを目的に活動しています。森本聖子さんら 5 人でスタートして、今年で 5 年目。現在は、淡路、養父など 7 市 1 町の 10 人が参加しています。「会員は県内各地で就農しているので、ゆるやかな仲間づくりとなっています。地域が全く違う会員同士、たまにはお互いの圃場を訪ねます」と森本さん。

年に 4 回定例会を実施。マルシェ（直売）に参加して農業の PR、食育の勉強会、他の農業組織とのネットワーク作りなどが主な活動。平成 29 年 7 月と 12 月に、グループとして初めての直売を、神戸ハーバーランドの商業施設カルメニ前の「カルメニマルシェ」で実施しました。

45 歳以下の女性農業経営者の入会を呼びかけています。ホームページ、フェイスブックで情報発信中。

agp.hustle.ne.jp/

兵庫県内の女性農業者のネットワーク

地域	名称	活動内容	人数
神戸	KOBE・ドンナ・ヴェルフル	農業に関する情報の交換を行い、会員の能力向上を図る	7
阪神	グローバル・レディ・さんだ	農業技術研修、情報交換	18
加古川	夢みるミセス会	農業経営や労働軽減等快適な農業を目指すために、研修会や先進地視察などの学習を行う	11
加西	加西市農村女性組織連絡協議会	加西市農業を担う女性農業者の交流、男女共同参画、食育活動など	10
	マダムフルーレ	花壇苗生産者の女性で組織する自主研究グループ	10
姫路	農業にやりがいをもつ女性の会	専業農家女性グループ	17
龍野	ふたば会	農業機械安全研修、先進地視察、情報交換など	22
	若草グループ	情報交換、先進地視察、揖龍・宍粟生活研究グループ連絡協議会活動への参加	6
朝来	養父市女性農業者ネットワーク（てんこもり母ちゃん）	養父市内の農業関連組織（JA 女性会･生活研究グループ、道の駅但馬蔵［蔵人の会］女性部、女性農業士、農業委員会）の連携強化。農業委員などの女性登用、市内農業の振興・農村地域の活性化を図ることを目的に、ワークショップなどの研修会や花づくり、イベント出店などを行っている	役員 10 名
	やどかりの会	養父市旧関宮町の女性農業者グループ。簿記の勉強会を開催したり、会から女性農業委員を送り出すなど、管内女性農業者組織の先駆的な存在	6
	七つぶの種	養父市の若手女性農業者グループ。年 1 回の研修会や情報交換を行っている。新規就農者も加入しており、仲間づくりの場となっている	10
	はじまりの会	朝来市のいろいろな業種の女性によるまちづくりグループ。子育て世代を対象に、農業のすばらしさを知ってもらうため「農業の魅力再発見講座」を開講している。また、メンバーで生姜などの栽培も（安心ブランドを取得）	10
丹波	丹歩々組 (たんぽぽ組)	I ターン移住者のうち農業に従事している女性で組織。情報交換が活動のメイン	
南淡路	べっぴんハート	野菜の生産技術、経営安定に関する研究	14
	ミルククラブ	酪農の生産技術、経営安定に関する研究	13
	あわじ農業女子	野菜の生産技術、情報交換	14
県域	ひょうごアグリプリンセスの会	県域での女性農業者による組織。会員の農業経営の発展に向けた自己研鑽、研修、販路開拓のためのイベントの開催や PR	10

※平成29年度ひょうごで輝く女性農業者実態調査より